2010.12.25

保土ヶ谷.神奈川宿～川崎宿 14.6km を歩く

三日目は保土ヶ谷宿天王町まで戻り、神奈川宿を抜けて川崎宿まで歩き、帰りは JR 川崎駅から東神奈川駅乗り換えで新横浜へ。新幹線に乗りゆったりした気分で帰る予定。

スタートで道を間違える

天王町駅を 7.40 スタートする。駅を降りると松原商店街がある、われわれはそちらではなく、昨日歩いてきた大きな通りを進み帷子川を渡る。300m も行くと江戸方見附跡があるはずなのに、1 本離れた通りにある洪福寺が現れた。そこで道が違うことに気がついた。地図をよくよく見て分かった、天王町駅を抜ける地点で東海道は斜め左へ向かっていたのだ。この街道マップで一番みづらいのがこうしたポイントで、ちょくちょく見間違えてしまう。7.55 追分の標識が現れる、左へ行くと八王子往還となり遠くは甲斐、信濃へと続く道だ。その先に今度は 3 階建ての蔵があった、その蔵は 1 階と 2 階の部分が化粧タイルで仕上げられている珍しいものだった。

タイル仕上げの蔵

32km ポストを過ぎると浅間神社がある、富士浅間神社の分霊を祭ったものと伝えられている。昔は本殿のある丘は袖すり山と呼ばれ、山の下がすぐ波打ち際だったといいます。境内西側の崖には富士山に通じているという「富士の人穴」と呼ばれる古代の横穴墓があり、東海道を旅する人たちが見物する名所になっていたという。ここを過ぎてすぐ「よこはま道」という看板があるのに気がついた、それは横浜開港を決めた幕府が、東海道の芝生村から横浜(関内)までの道路を建設したというものだった。

外国政府の要望で造られた「神奈川関門」

浅間神社から 500m も行くと 3 階建ての高速神奈川 2 号三ッ沢線をくぐって行く。ここから大通りを離れて緩やかな上り坂となる、しかし、道沿いは 5 階建てくらいのビルが立ち並び、太陽がでているのに陽が当らずとても寒いのだ。これには参った、お天道様の力がすごいことを思い知らされるとはこんな時を言うのだと思った。そして、8.30「関門の碑跡」に到着した。これは横浜開港後、外国人が相次いで殺傷されたため、外国政府の要望で横浜周辺に設けられた関所である「関門」です。神奈川宿でも東西 2 か所に作られ、厳しい警護体制が敷かれていました。碑が残っているのは西側.神奈川台の関門で、この地は「袖ヶ浦見はらし所」とも刻まれていた。つまり一番の高台ということで、ここら辺りまでくるのに 2.3 か所有料パーキングがあったが、値段は 1 日 1400 円とか 1600 円の表示が見えた。

神奈川関門跡

おりょうが働いた田中家

坂本竜馬の妻「おりょう」が働いた料亭

下り坂を進むと「田中家」という料亭らしき家の前に「歴史の街.神奈川宿」というタイトルの説明板が目についた。書かれていたのは……日米通商条約では神奈川が開港場と決められていたが後に横浜に変わった、神奈川宿がにぎわったころから続く唯一の料亭が「田中家」で、文久 3 年(1863)の創業。そ

の前身は安藤広重の東海道 53 次にも描かれた旅籠「さくらや」という由緒あるものとか、さらに坂本竜馬の妻「おりょう」が明治 7 年から勝海舟の紹介で働いていたという。英語が話せた「おりょう」はとても重宝された……と説明されていた。その先にも竹の植え込みがあり一見して料亭と分かる家があり、料亭街とも言えるところだったようだ。

そのすぐ先に一里塚跡がある、この一里塚は日本橋より七つ目の塚で、江戸時代には大綱金毘羅神社のすぐ脇にあったという。かつては眼下に広がる神奈川湊に出入りする船乗りたちに深くあがめられていたのだ。

宿場には外国政府が使用した建物がいっぱい

ほどなくして東海道線にぶつかるがそこから少し左へ行くと、開港当時はアメリカ領事館が置かれた本覚寺がある。日米修好通商条約でアメリカ公使ハリスとの交渉に当った、全権委員岩崎忠震の石碑があります。踏切を渡るとすぐ街道は斜め左へ進み、開港当時はフランス公使館だった甚行寺、イギリスの士官宿舎にあてられた普門寺がある。

都会の小学校

その先で街道は左へ大きく曲がって行く、中央市場入口交差点の歩道橋の横に 6 階建てのビルが建っている。入口の前に来て驚いた、何とそれは小学校だったのだ。都会の学校は学校らしい雰囲気すらなかった。その先に本陣跡の説明板があり、神奈川宿には滝の橋を挟んで、東の神奈川町と西の青木町に本陣がありました。神奈川町本陣は石井源左衛門、青木町本陣は鈴木源太左衛門が務めました。ここから川沿いに左手へ行くと宗興寺で、開港当時、アメリカ人宣教師で医者であった「ヘボン博士」が診療所を開いていました。このヘボン博士は「ヘボン式ローマ字」でよく知られ、日本で最初の和英辞典を完成しました。その奥に京浜急行本線の手前にイギリス領事館だった浄龍寺、さらに進めば東海道線の手前にフランス領事館だった慶運寺があり

ます。そして、逆に川を下れば神奈川台場跡があります。この台場は伊予松山藩が勝海舟の技術指導を受け完成させた、開港時の海防の要でした。今は埋め立てられて陸続きとなっていますが、当時は海に突き出た形をしていました。ここから 15 分程歩いた所に良泉寺と言うお寺があります、その説明がふるっていました。開港当時、諸外国の領事館に充てられることをよしとしなかった寺の住職は、屋根の瓦をはがして修理中だとの理由を口実にして、幕府の命令を断ったという。気骨のあるというか、腹の据わった住職だったのだろう。

びっくり、コーヒー一杯 200 円

9.20 京浜急行「神奈川新町駅」前に来ると、初めて喫茶店を見つけた。チェーン店のドトールコーヒーだった、すでに 1 時間 30 分余歩いており良いタイミングだ、人の多く集まる場所にはいろいろな店ができる。中へ入るとすぐに席に腰をおろしたのだが、セルフの店だったので妻がカウンターで注文して、コーヒーとスイートポテトを受け取り戻ってきた。コーヒーもまずまずで、スイートポテトもおいしかった。それに何よりも値段にびっくりした、コーヒーは 200 円、セットでも 330 円という。昨日のエメラはコーヒーのみで 450 円だったからこの違いは大きい。

ゆっくりコーヒーを飲んで街道に戻ると、駅前に開港当時オランダ領事館にあてられた長延寺.見附跡があった。行ってみると今は公園になっており、その当時の面影はなかった。そして、子安駅を過ぎると東海道線と京浜急行が並行しているのだが、驚いたことにわずかな距離しかない線路と線路の間に家が何軒も建ちならんでいる。あの家は玄関へどのようにして行くのか? また、もう少し先にはお寺もあり、門の前に踏切があった。頻繁に走る列車の合間でないと出入りすることはできない。茅ヶ崎駅の時刻表では 7 時台に何と、品川方面行だけで 18 本の列車が走っているのだ。

薩摩藩の行列でイギリス人が無礼討ちにあった生麦事件

お寺を過ぎると直に鶴見区に入り 26km ポストで、キリンビールの歴史か

ら製造工程まで楽しく学べる、キリン横浜ビアレッジが見えてくる。臨港線?のガードをくぐると生麦一丁目の交差点で、ここに「生麦事件碑」がある。と思ったら道路の改修工事が行われており、碑はこの先に移転したという。そこから 3 分も行くと真新しいお地蔵さんの祠のような中に記念碑と、説明板があった。生麦事件とは文久 2 年(1862)8 月 21 日、ここ生麦村で薩摩藩島津久光の行列に遭遇したイギリス人 4 名が、無礼のかどで切り付けられ死傷した事件です。イギリスと日本の国際問題に発展し、薩英戦争の原因になりました。薩摩はこの戦いにあっけなく敗れたことで外国の力を知ることとなり、日本を近代的な国にするためには速く開国することが必要で、今の幕府ではだめだと考えました。そして、薩長連合が結ばれ討幕へと突き進んで行きました……という歴史の大転換点になった事件が起きた所です。

生麦事件碑

この碑は犠牲となったイギリス人リチャードソンの死を悼み、黒川庄三が私費を投じて明治 16 年に建てたものです。この辺りはキリンの工場や物流センターが先ほどのビアレッジから続いており、とてもでかい規模です。
ここから 15 分程行った所に、今度は「生麦事件発生現場」という説明板がありました。それは生麦村の庄屋が事件の内容を記したもので、当時の原文で書かれており分かりにくかった。が、それによるとあらましはこうだ.....事件はここで起きた、異人 4 人内女 1 人が本宮町の勘左衛門前で無礼打ちにあった、1 人は松原で死亡 3 人が負傷し神奈川方面へ逃げる、お役人が出張り

村役人一同桐屋へ詰める、死亡した遺骸は大勢の異人がきて引き取った.....というものだった。これからすると、さきほどの碑があった所は死んだ場所ということか。

生麦魚河岸通りから商店街を経て京急鶴見駅へ

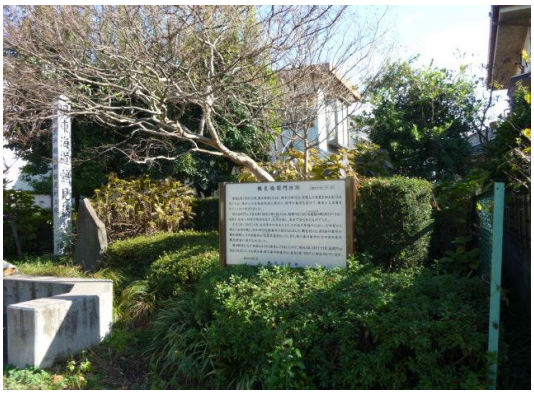
生麦事件発生現場の少し手前に、「蛇も蚊も祭」の説明板がありました。今は生麦神明社と道念稲荷神社で、6 月第一日曜日に行われる祭で、横浜市無形民俗文化財に指定されています。生麦が農漁村だった 300 年前に疫病が流行し、この時茅で作った蛇体に悪霊を封じ込めて海に流したことに始まる。つまりは疫病退散、豊漁豊作祈願と雨乞いの行事で、茅で作った大蛇をかつぎ、かけ声をかけながら街を練り歩くというものです。

その道念稲荷神社の前を通り過ぎると魚河岸通りで、80 軒あまりの鮮魚店が並び午前中はにぎわっています。でもわれわれが通ったのは 10.50 だったので人通りはなく、シャッターの降りた店もありました。そんな店先を眺めながら行くと、小魚が少々残っていました。でも一匹 6.500 円のトラフグは数匹が水槽で泳いでいました。それに平ペッたい大きな「平貝」というのが目を引きました。生麦魚河岸通りを過ぎて JR 鶴見線を越えると、24km ポストを横目に今度は商店街へ入って行きます。そこは歩行者天国になっていて路上にはたくさんの商品が並べられ、多くの人が品定めをしながら買い物を楽しんでいる様子。時々「自転車は乗らずに引いてください」とアナウンスが入る。クリスマスにこうしたセールを行うのも、楽しく買い物ができそうだ。商店街を通り抜けると 11.15 ビルの立ち並ぶ京浜急行鶴見駅前に到着した。

鶴見橋関門旧跡

少し時間は速いがここでランチにした、交差点前の「丼丼亭」で天丼の専門店だった。普通の天丼は 500 円で、私はアナゴの天ぷら入りを頼み 600 円。扱うのが天丼だけの専門店だけに注文して直にでてくる、どちらも天ぷらが大盛りで、安くておいしかった。コーヒーのドトール店ではないが、人の多

く集まる所には安くて旨い店が集まるようだ。
満足して 11.40 店を出て京浜急行線を越えると、左手かなたに総持寺の屋根だけが見える。地元の乾坤院をはじめとする曹洞宗の総本山で、明治 44 年に能登から移転したものだ。ここには大スター石原裕次郎の墓もあるそうだ。



鶴見橋と鶴見橋関門旧跡

そこから鶴見神社の入り口を通り 15 分も行くと、斬新なデザインの鶴見川橋が見えてくる。その橋の手前には「鶴見橋関門旧跡」がある、横浜開港とともに外国人に危害を加えることを防ぐために、横浜へ入る者を厳しく取り締まるためのものです。生麦事件の発生により、川崎宿から保土ヶ谷宿の間に 20 ケ所の見張り番所が設けられました。ここ鶴見村には 5 番目の番所が鶴見橋際に設けられました。

すばらしいデザインの鶴見橋を渡った所が小公園になっていて、鶴見橋界隈の説明板がありました。この地は河口から 2.8km にあり、昔の鶴見橋は慶長 6 年(1601)ころ架けられたといい「江戸名所図会」にも載っていました。つまり東海道とほぼ同じ歴史をもっているといいます。

江戸名所図会の鶴見橋

2km 先の川崎宿をめざす

ちょうど 12.00 に鶴見橋を離れていよいよめざすのは川崎宿だ。川崎宿は他の宿場より遅れて元和 9 年(1623)につくられました。厄除で知られる川崎大師信仰が広がるとともに大いに栄え、旅人はもちろん多くの参拝客でにぎわいを見せました。現在は都市化が進み当時の姿は全く残っておらず、わずか少数の寺院にその痕跡を残すのみとなっています。

鶴見橋から 6.7 分も行くと市場一里塚跡があります、日本橋から 5 番目のものです。赤い鳥居のある小さな稲荷神社の前に立派な石柱が立っていました。その先には立派なしめ縄をつけた石造りの鳥居が建つ熊野神社があります、ここは徳川家康が入国に際し、武運を祈った神社です。社殿は赤穂浪士ゆかりの宮大工「渡辺喜左衛門」とその子孫により造営されたもの。

熊野神社

芭蕉の句碑

鳥居をくぐるとすぐ両脇にお城の石垣を思わせる台の上に灯篭があり、そこからまっすぐに延びた参道の先に、銅板ぶきの小じんまりした本殿が印象的である。そこから 500m ほど先、JR 南部支線と京浜急行線が交差する八丁畷駅を越える、畷の名のとおりこの辺りは何もない田畑の道が八丁(870m)続いていた場所。その京浜急行線の線路わきに芭蕉の句碑がある、「麦の穂をたよりにつかむ別れかな」....この句は芭蕉が元禄 7 年 5 月江戸深川の庵を立ち郷里の伊賀へ帰る途中、門弟たちとの分かれの気持ちを詠んだもの。そ

の後芭蕉は「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」の辞世の句を残して 51 歳で亡くなった。ここから 20 分程で川崎の街へ入る、川崎駅前から 2 本の大通りが伸びており、1 本目の小土呂橋の交差点が 20km ポスト。そこから砂子通りを進み、大通りの「砂子(いさご)交差点」まで歩きました。

今日の歩数は 21.000 歩、ここから川崎駅へ向かい 2 泊 3 日のウオーキングを終え、新横浜 14.52 のひかり 517 号に乗車。豊橋までノンストップ 1 時間 7 分、途中では富士山が美しい姿を見せてくれ、今回の旅を締めくくるにふさわしいものとなりました。(今回の旅の費用は 2 人で交通費 24.000 円、飲食費 10.102 円、宿泊費 18.550 円、合計 52.652 円でした)